

オリーブってなあに？

オリーブぐみの探究活動

聖愛幼稚園 2023



まるいのがオリーブのみ
はっぱもえだについでる かな



オリーブのきとはっぱとみ まゆこ



オリーブのみをかいた。いろんないろの
みがあったから、いろんないろでかいた
みのまんなかにあるてんはたね
ゆうせい



みどりとむらさきの
ちいさいまるはみ。
みどりやむらさきがあった。あおっぽい
おおきいみもあった。
はっぱにてんてんがあったのを
かいた。
あやか

オリーブのき
したがねっこ
きがういていかないよう
につなげてる
あさひ



Day1 2023.10.30

環境設定：

オリーブの木の影が映るように白い布

オリーブの枝と実

虫眼鏡と拡大鏡（3種類）

@オリーブの木の下



子どもたちへの問い「オリーブってなあに？」

「わからない」と答える子どもたちの中、はるまさんがオリーブの木をまっすぐ指差したところから活動は始まりました。

子どもたちの興味はまずは「実」を集めること。デッキに落ちているオリーブの実を誰ともなく拾い始めました。集めた実を白い布に置くと、ゆうとさんが「いろであつめてならべたい。こっちがくろでこっちがみどり」と集めたオリーブの実を一行に並べ始めました。すでに、彼はオリーブの実を理解し、色が違うことに気がついています。「こっちはおおきい、こっちはちいさい」大きさにも様々あることを伝えています。

「オリーブってなあに？」と問いかけると、「まだわからない」とゆずはさんが言いました。「まだ」と発言していることに、とても価値があると感じました。これから「わかっていきたい」という気持ちににじみ出ています。

虫眼鏡と拡大鏡を渡すと近くにあるものを次々と観察していきます。虫眼鏡と並行して、自分の感覚器官もフルに使って匂いを嗅いだり、触ったり、「知りたい」という気持ち、「知ろう」とする姿があふれていきます。



枝の一部分を指しながら「これみて！ギザギザになっている」恐る恐る触ってみて、「だいじょうぶ。むしじゃない！」小さなオリーブの葉っぱの先を虫眼鏡で見て「つぶつぶしている」「さわるとザラザラしているよ」「こっちはツルツル」「なんでだろう・・・」よく見て、感じて、子どもなりの仮説を立ててオリーブの木、葉っぱ、枝、実を観察していきます。虫眼鏡と自分の目という2つの異なる道具を使い分けているようです。



ひろやさんがアクリル台の上にみんなのオリーブの実を置いて、観察テーブルを作ってくれました。虫眼鏡も一緒に置きたいそうです。

ゆずさんとゆずはさんが剥いた皮のないオリーブの実も一緒に置きます。



「かわをむいていたらむしがよってきた。いいにおいがするから。バナナのおい。わたしはキレイなおい」ゆず

「むらさきのオリーブのなかはむらさきだとおもったけど、みどりだった」ゆずは

ひろやさんはこのグループで唯一「オリーブ」のことを知っていました。彼は最初の仮説「はっぱからできている」という考えを持っており、実は「ぶどう」だといいます。匂いはぶどうではないけれど「ぶどう」。彼の考えをもっと知りたいと思いました。



Day2 2023.10.31 オリーブを描く

子どもたちなりの方法でオリーブを知っていった1日目を経て、2日目は「描く」ことで、よりオリーブと仲良くなって欲しいと考えました。枝や葉や実の形や姿に焦点を当てて描いて欲しいと考えて、白の紙を3種類と黒と紺のペンを準備し、シンプルなツールを選びました。人は「描く」時に、その対象をよく見て、よく思考し、自分の考えを表現しようとしています。子どもたちはどのようにオリーブを描いていくのでしょうか。

ひろやさんは早速、オリーブの葉っぱ「ツルツル」「ザラザラ」を確かめていました。ゆずさんはオリーブの実を見つけると躊躇なくつぶして楽しんでいる様子があります。ひろやさんが「ねえ！オリーブのつぶつぶが1つふえてる！」と言います。それぞれに昨日の体験からオリーブに挨拶をしている様子が垣間見えます。

「描くこと」

トレーシングペーパーを触った時に、パリパリ、ペラペラ、ペリペリ、ふにゃふにゃ、とオノマトペでの様々な表現が出てきます。ゆずはさんは「おきにいりのオリーブをかく！」と大きなオリーブを描き始めます。ゆずさんは潔い線を縦に描き、丁寧に葉っぱを描いていきます。ひろやさんは自分の頭の中を覗いているかのようにストーリーを話しながら描き進めていきます。「できた！」というので「つぶつぶは？」と声をかけると「そうだった！」と描く世界に戻っていきます。そうたろうさんは目の前のオリーブの枝をじっと見ては描き、じっと見ては描くを丁寧に始めていきます。

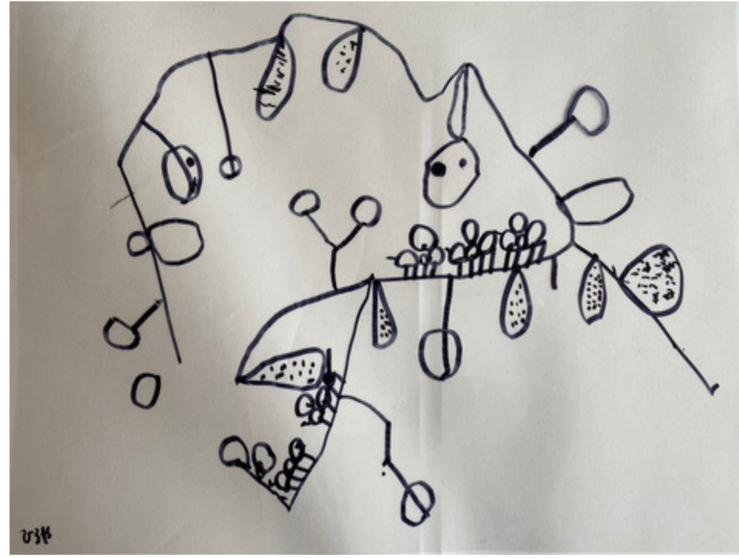


ゆずさんは潔い線を縦に描き、丁寧に葉っぱを描いていきます。ひろやさんは自分の頭の中を覗いているかのようにストーリーを話しながら描き進めていきます。「できた！」というので「つぶつぶは？」と声をかけると「そうだった！」と描く世界に戻っていきます。

そうたろうさんは目の前のオリーブの枝をじっと見ては描き、じっと見ては描くを丁寧に始めていきます。



おきにいりのおおきいオリーブをかいた
ゆずは



オリーブのきにア리가やってきた
ひろや

Day3 2023.11.9 オリーブを描く

オリーブの姿をそれぞれに捉えて描いていた前回の子どもたちの姿、そして「色」にも言及していることから、ペンの色のバリエーションを増やしました。また、より色を意識できるような環境構成を心がけました。

活動はいつもオリーブの木との触れ合いから始まるようになってきました。園庭にやってくると、オリーブの近くにいき、木を触り、葉を眺め、実を探し出します。木を見る視点も少し変化し、より繊細によく見るようになってきました。

ゆうとさんが見つけた黄色と茶色が混ざる1枚のオリーブの葉っぱについて、みんなで議論が始まります。

「きいろとまじっている こうちゃの いろみたい」
「おみずがないから
うえからどんどんかれていく」
「たいようがあるからだよ」
「きいろと きみどり、みどりがある」
「みどりの ほうが おおいね」
「おちたから いろが かわるんじゃない」

子どもたちが立てた仮説は、自然の循環についても及びます。水がないから枯れる、太陽があるから上から枯れていく。子どもたちは自然の摂理を体感として理解しているようです。



オリーブの「カタチ」と「色」をよく考えて描いてみない？

「1週間前と何が違う？」

ひろやさんは指先でそっとオリーブの葉っぱを触り、先週との違いを伝えます。

「あれ？こっちがツルツルで、こっちはツルツルじゃない！なんでだ？」

葉っぱの先に新芽が伸びていることに気がつきました。



全体を見ることと、1枚の葉っぱを見ること。どちらの目も持っているひろやさん。

お気に入りの黄色が混ざった葉っぱをじっくり観察してから描き始めました。

まずは木全体を描き、葉っぱとオリーブを描いていきます。

前回も、今回も最後まで納得いくまで描く姿があります。納得いくまでできるその気持ちはとても大切です。

Day 4 2023.11.10 絵の具で描く

子どもたちは三原色で多様を生み出せることに喜びを感じ、オリーブの色を自由に表現していくのではないか、という仮説を立て、環境設定を行うことにしました。先生方と相談し、問いかけはシンプルに、「オリーブを絵の具で描いてみない？」と伝えることにしました。



赤・青・黄の色の三原色をパレットに少し入れて渡すと、思い思いの色を作り始めます。黄と青を混ぜてみどりを作りますが、一つとして同じみどりではありません。オリーブの葉の色と比べながら色を作っていきます。

「描きたい！」

子どもたちから自然な声が出てきます。





「あおだけでいい みどりのけんきゅう」
ゆうと

「いろんないろのオリーブ、いままでいっぱいみてきたから」
「へんしんタイムしよう！」
ゆずは



「まぜたら、いろんないろになるってかんじた」
そうたろう

「きにいろんないろのみがついている
たいようのおかげでオリーブはそだっているから
たいようをかいた」
かの

